栄花物語三

857
20

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

栄花物語三

857-20

帝国図書館

昭和

閲

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20　　ガラス使用

於遠雜上

岩の中にて此尺ゆる女の心にいれ夜宿の遊
るるんと又人ならぬまちいさ此高ともいふ所をも山陰
いるはりとやしるいさそく杉の後の陰ますきをん
此也とし此ゆりしとそめかれ此れ此をこりしとそ
くするりぬくてさいつせ此事也保元の十一月
朔日の事なり女房四十人ワレハ六人下仕六人なり
いとしくえりとしのへさせまへ夜まやんと此なさを
しけるに毎いと寸四位の位の心すめといへと此也に
ましらいとろくなり出たらさしけるとぬとめ
けうさつてせまへさたもけしすぬさらくのまるりいて
よ此とえてせまへりさへさけしハなとハ女院（東三条）より此也
をしせまへつきれハやそはしいのワレハの名とも此人

三八一

位人文人女人なとやうまはをめけめさせまへの姫君
の此何りさ夜ワレなる此也なれとれくしさけまめ六寸
しらめましせまへりけるらぬしさせんしるくなし
けまれしますまさい此ゆされるへさほしふいけか
いとけをりまるくいへしとろまめてぬくかけます
尺をりけうまけるへこもけまりワくれくます
といふまをのくまへるくやなとまりいさあしさせし此
めさまし此まそゆれいさせまへつきまつるほめつる
なるさてまそさいつせまぬ

○かくて七月（同二年）まもなりぬまにはまりれさめけさとけるぬ
まそ此しお撲ハ東（三条院）文此頭ゆせまへ此れりしと此て
ませ此てはまういふ此也なるへし七月七日中宮（上東門院）

東三条
院にきさいしさせ給ふ
演古今 姫上
くれとまいの中井の御はしもなくはれかゝるは
しれかゝさの御はしなりけれ
同
かゝさの御はしかゝるゝ中井まそゆさあいの
宮とる御とうしやじ七月十余日の御はふるりぬ
三 ことしにこのすまいへともいりこのつまりて左右の将
公季公 道綱
るものはりふハ出てるゝあくれさつきとせる
あまふ言ふ御御はすへき年るれもあまいそかと
おくりしさつくもあしくるん

三ノ二

とりへ野

長保三年　東三条

かくて女院の御四十賀、おほやけざまにせさせ給ふべきを、殿にはそれよりさきに御堂の供養せさせ給ふべきにおぼしめしたるに、例のさまざまにいそがせ給ふ。

内堂

七月にとおぼしいそがせ給ふに、女院大海をせさせ給ひしにぞ、花と大事におぼしおかせ給ふ。七月にとおぼしめしつるに、世中ものさわがしう、されて、さらに例の九月にしなさせ給ふ。よろづはてめでたくおはしまして、てのちはいや、宮の御事、うちしきりましていみじう

嫄子は宮うとくなりて母定子はさきにうせ給ふ　東三条院

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

又万炊會ゐとせき分給て海そさせ給とても、いとう
なりせ給さゆゑ海人こもいかれしう見ゆる所に寺僧
と毎に万歳をうのまれ出させ給てほとなくに八海
はしめさせ給すへて年給の所に八海よりはとくれたりは此
をしつゝへし海師達ニ乃世後世乃所事めてゐう
所にうまり海よりの所をおくしいそさせ給にさし記を
所にすしさすれとゝろかるりゆゑしおまそめり海も
そ乃所をし記見なりせ給てよりは乃山こゝろ所にうめ
せき分ゆゑてて十月より所 東三条院 賀の土御門殿にてをさせ給
一条院 所なるとゝ此にいとうめてゐし所 所風乃哥とも
上手と毎はうまりまつりまつりはかれ所なるしをち乃
まいらす八月より東よりしこ女ものこゝろして書

戸はいと此手ゐこゐ小弁乃資忠
天原やとしけくハ見てハ仲と毎すこかよハせれ
姫乃東の月神ふ立ちゐ東ま重陰
神山乃より神葉乃ゑ此すゑまじまゐ行ゐ
君ゐまゐは代ゐるとゝ此ゐし舞人ゐ乃子君達ゐりす
ともやうくしけゐはとふ殿ゐ君達二ふハけしハまで
まいゐまふ高明公女 相殿乃所殿のいと 頼宗公 君ハ納蘇利舞ゐふ
殿乃うへ 倫子 所殿ゐ 頼通公 ゐ後ゑまいゐまふ殿ゐ
所はめもはるふおもしゐ山乃和葉子とはし
中鶴乃相しくれ殿はこゝ乃女とこれもくれる弁すハう
乃こゝにうすゝ見ゐ黄ゐれるとゝ所にくまゐゆりそ
世しめてをさ池乃うへまおるし女こさ海くれ今ち

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20

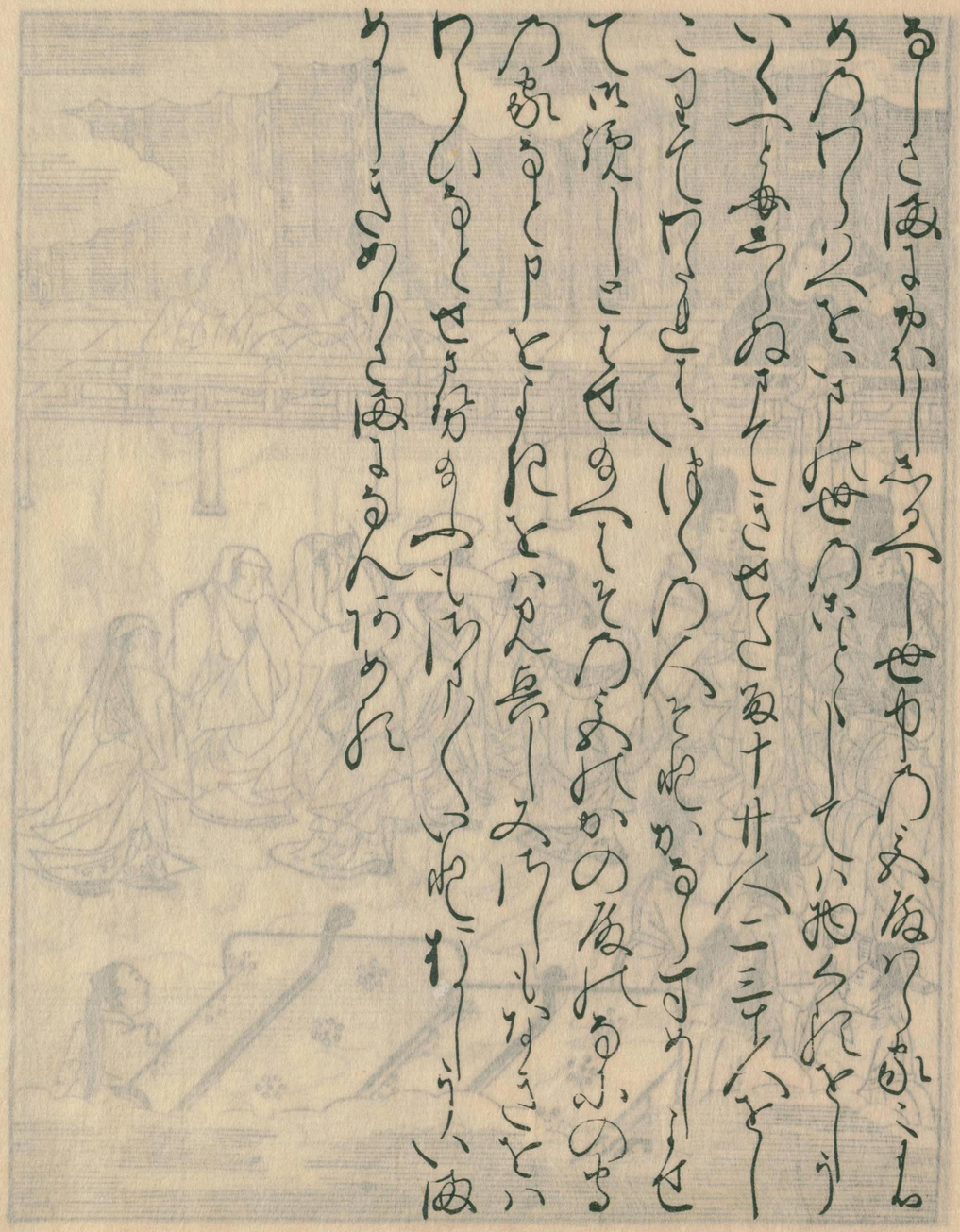
ガラス使用

初む

寛弘二年よりぬほさめしるといひて（山堂）殿乃君
達は此はしの（教通公）有る和殿乃に殿れいは（頼宗公）君なとこ
那にかうゆりし給てほ此くれにはさしも少将
兵衛乃をけなとさこゆるふ春日乃使の少将（頼通公）は中
将よ知行てかしし乃家れ使せさ分給殿は一條春
にはしさ乃屋なりし此にをさせ給てはこ年に
る欄なといふしうしうしうをさせ給くは年に
誤よりはしめ家と殿もう（倫子）へもはさせ給くに須
するふかしはほんい乃君れに事と世申ゆすり
ていそくせ事へそ乃見ふなりぬまさ見れにはしさよ
はさせ事ぬ殿は使の君れにかたられことに須し

三ノ九

もてくそにはしさへはおくします行かく乃殿はし
殿上へひさくしておくします行しもはしぬさふは
にんいまかり給君達は出れといふしきまはおや
をらはいそさまへはさるれをさいてよろにはしなり
まみてさせ給に代乃さゆひ乃ひしさふとしまは
馬をいまそ三はくさせ給ほ此えをさ孫をぬや
ぬしは此使乃ひくさそ帥（教道）宮む山院なとさ
とに車三をくぬとに須しにはしさ乃まへめまさ
をいはしさせ給帥文れに車乃ふりまは初（ジアス）をの
せ殿まへはむ山院乃に車はさんれうるしれといふ
やうまぬしせまへはめしろれに車をとへてえもいえ
す化しせまへはさもかうもすへりそ此見てたりに



国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

寛弘五年

○二月まゐてむ山院いうしつゝ世給いうしう衣
いかに此宮のまゐはしふれかさ乃かけりせさせ給なりけり
衣をかさ申此尤ゆゑれ心ちとくしなとゑれ
すくれく宮しさ寸はじすゑ後ゆやうしまゐまゐれ
れなゆりおもすふとのく女ゑ二人つゝそかもし
けるまれ志ゐるゆゑまゐまりこの女ゑらとなむ
忌乃うちまゐれとりそてりへさ此りふすとのこ
乃給はまれ此中務 画殿もじすゑもちりくま涙を通
まふおやけし乃とゝ文とハそ乃けしう乃言ま
命婦まそうまれ給けるまゐふ此れはとのきゐふ
せまれ志ゐ御此乃給せられもやそ志ゐ言そ
やしなひまりけるかゐほふ院乃此ゐらゆゑ

なりて二月ハ日まうせ行ぬ此年四十まそおもしは
けり年ゑゐなれはうまり後僧侶何れはれし
うかしこまれすかさ申れし殿堂なし母さすかり
いさうおもしはけり院と帰しうけりくしさま
されとそ宮しさせまひけれ此うそうの和おそゐし
けなり物とさるとて帝乃命婦
　　そ乃ゑ後ゑ御ゑ此いそ記しとしハ後
乃夜とおさ後とおまこけるゆゑなりすともおか
ゐり後ゑとまれいこのほ此ゑ帝乃命婦ゑやしなひ美
ともなりまりて女ゑらハさりしまりゑかうせ給
ゑれまさ人の此ゑゐ此おそゐしさゆまそ皆
宮しさせけり帝ゑ命婦ゑともまれハ志ゐすと乃給せ

それもわりなきものにおぼしてけるなるべしとぞいひつたへたる
なげきけり
○右同年七月になりぬれば中宮上東門院のれいならずおはしまさねは殿の
そうにまゐらせ給ふべければいそぎおぼしめしけり
内にはさうざうしく思しめさるゝ事かぎりなし
さま一条院よりはとのゝ御ことをさゝげまうし給ふ
承香殿顕光公女元子にはいかにめでたくおぼしつゝさはらせ給ふことゝもて
いつものやうにさしもおぼしめされずにてまた一品宮脩子の
おほかたはさせ給ふもめでたくおぼしめしけるにぞ御
もろともさしあはせ給ひし二宮媄子の御事をおぼしめしいでゝ
あはれけふ御ことなくおはしまさばとおぼしめす土御門殿おほん
ありさまいはむかたなくをかしいけのわたりのこずゑ

やり水のほとりのくさむらおのがじゝいろづきわたりつゝおほかたのそら
の艶なるにもてはやされて不断の御読経の声々
あはれまさりけりやうやうすゞしき風のけしきにも例の
たえせぬ水のおとなひよもすがらきゝまがはさるひとも
またそれは法興院の御八講とてさうしはじまりぬれば
の日もあはれはなりゆかいそのいはずの
何ゆゑともおぼしさるべきことをおもひしられてなくて
まの御事は九月ばかりとおぼしめしけるに八月ばかりとも
いそぎのことどもいとちかうさし入らせ給ふにもかゝる御事
も月日かゞみの御ことゝもいとあはれにてものし給ふ人々にあはれ
けおもふわりなしと申されけるをちかくよりさせ給ひてまゝ
御まへにも見させ給ふとてぞ御めいたる御修法ども

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

後二条院

倫子

さいへとろかふめてゐし海めとふ内しりにたり
きれりうきてさいりゐ女里に使りハ粗定中将なり縁
なとふ出地なりはんとにハ伊勢の君てくる使も
まさくてさりつ里ハ内乃に使えひこけてさいつす
女房乃白装束ともと見てはこゑゐろかひり
なとゑてきにくにゆとの面れ時とそ何ゐそれ遣
犯立にハえいひつきす史とりしてゐれ下部とも
見とり乃きぬれうへ白さゐうさきともまてに湯ま
いりよろにゆきのま白なかほひともさりゐ乃さゐひ
乃かさなりのふかきて見すれもとふさいりゐ見はしつゝ
うりしくにうそなるり女房これ白き装束ともて
にゆとのれいさきなとこれ行なしまなり湯殿も

三ノ二十二

さゐきの寧れ君にひくゆハ大納言れ君なりゐハ殿に
時通女
まゐよくぬてさはしを給にけるし小寧れ乃君虎のかし
らもゑれ内侍ゑてにさ犯よういりにはうりゐ位十人
六位十人に文のまゐせまハ殿人れ弁 有國男 唐業ゐ欄のまゝ
まりて史記乃第一のまてをもとむ護方まハ浄土ゐれ
伊那さゐひゐ雅信久男 雅通れ少将うりま犯をしれさり
て伊那ようりけてむりまゐまてむしさきてにう
そくとも乃さゐくなりハゐく景信のいちしていゐるさ
めし

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20
ガラス使用

先考帝六世孫国盛子

けとのことゞもはえ御覧じやられぬこそくちをしけれ
まゐれ集ともをかきて入れさせ給へり
○年もかへりぬ寛弘七年○ことしはめでたき例のつゝ
がなくて過ぎさせ給ふ帥殿は正月よりなやましうおぼされて
心ちをもりてそこはかとなくはれさせ給ひて月ごろ
さはげさせ給ふ事どもはいみじうおぼしなげかせ
給ひけれどしるしもなし例の大臣の御定めにて
まかせ給ひてもはかなくおぼしめすやうなれど
いとあはれなるを御心地はいとゞよはりまさらせ
給ひける 伊周公二女 道雅 少将などをとこ子ども 重光女 北の方よりさき給
ひけるをとめ君たちのおはしますをいみじうおぼしめさるゝも
世の中はかくこそありけれとおぼしなげかせ給ひ

とのばらのやうなるは御さまなどもありがたうおぼしめしつゝ
はさまの御ことなど申させ給へるなれ
すゑの世にもかくこそはと帝の御心にもあはれに
思召さるゝ大臣の御心のほどもあはれなりや
たゞ大臣の御心にありしに御年にて
これはおぼしのこす事なけれどいまはかくてなん
いまはむかしをおもひまうけさせ給ひて 伊周公
かゝるほどの御心ちにもいと心ぐるしうおぼしめして
いまはかなくおはしますにもしたがはせ給はず
ありしにかはりてよろしき御事をこのみ給ひ
なほ人々にもよろしうはからひ申させ給ひて
ほとけの御事をのみいのりそへさせ給ひ
かりそめにもはかなき世をおぼしとりて

こハ行りつゝんとゆり海かくやかしきすさまとて尼
まるしまるんごとれも人さゝ物くるとしたゆら
めやしきは師乃ぎともふかれまんをしめられは
れしきつさ那まろかゝるん後人まつられは人れ心
もりのあるまいけりさ海とさて給はしかるも恨
さあしんれすゆめくまろかなりん世乃行きて少
せまろと人まいひつゝせ給れまなしるくゝ中まへ
も大姫君（北宗五北方）小姫君（上東門院候）海とるし給もとろかなりゐて何
きれて行きすふ乃さもいへ給ひんさもるくゐて
よこ此なる給（道雅）松君れ少将ゐとを元まれいこしまゐま
いひ心るしと位もかもりるゐを見とれて心ゐるす
ふまをられてハいへせんとすゐましゐめまはきりとも

ミハ行きへてもいかまをしとすゝん那いてや世まをまつ
らひはかき位人ありハみかしへまひしくるん人れと
心りて世まをさらひ物ゆりてゐれいせうとるし名
簿うつしるとをハまふかこ時をめつゝをしり寸此
乃行こめるゝハゐゝかゝしてゝ山林まへゐへさそると
なくくいひはけ給といふ人れし此ゆりいまと
ひ給をふきとりふかれしともとろかりゆ（陸奥）納て度
められまなまとひ給てるふかかくハむかしはくる
けまえれ行ゐすまハ得まを此るとてかゝ此あるの得
まハをれもむれをんるといふしうる此ゐへハ君をしてハ
年行ゐ乃やうまゐりさきて得りつまとこかくあも
人もはかくしかしてやこゐるすゐめられまにかし

きす道雅とる御よくいひとしへすべれ此よろこは
いひはけるなれ一品（脩子）の一の（敦康）も此のうちといふなく
こわりしなけくほとに正月十余日にる世よりは
にきめしとてる車乃者も志きく殿にて御内に系
つまへるともきこゆまとめられにいとし大姫君は御
いまも八十まてにくしおまやうにいとうにくし
けるそをけれ四人すりめまりすべりにてうあさ海
めいさやうつさけちうらうぬきにめいるとは
うにくしうて白きにそとも乃うへにかうしに乃こを
心乃とりぬときすべてあさけ海をなすべるめれ
まいとううはくしけるりゆ姫君はめいまして
大姫君よりはすあしおくさやうにていに志うまく（宿徳）

三ノ六

まをのくしうめれさよけ乃人や此見てすてにくしは
ぬけれ三寸ひりをしぬほとまていとうあさやうに
そのをしけに見てるめこ乃にそるよくに見れ如き
るりぬれはいとり乃にうそくとも乃るしぬる程
こ見てくりいとうめられにようはくしけるりにてち
ともに母少方にやうにおくしたるるさ海まてぬい
さ三十余よりは此見て居れも又此さよけに
ておもす花人れ此将いに此めめいうはくしうは
にきよけもめへきかきり給はれてこれにとこ乃さ海
こそかうようとをのくまさかさ○さりかり衣まこ
芸乃こをんれにしぬさえてくれる井乃うりに
ぬるとそきすへ海ぬめいなまにるくまりいの海

まましていくうるにまへ[illegible]
夜をうちあれば[illegible]
いまれ給へるる年にれ[illegible]
おくしましけるを此月にるやこ給てやうらほ
そりまへ毎ゝめめひるとのにしまかたり給とぬをそ今
おそろしにまふさこゆゝ此姫君さらにおもすれハ
うしきれかりて此烏帽子ひさいれて外まへ[illegible]やう
るる女房四ぬ人をうらうと色れ[illegible]ひしともかゝ[illegible]
ひさゆひにまたりるふすもしめりめられはおし
此年より正月（寛弘七年）十九日まうせ給ぬ此年十七まそおし
ゝれこの姫君さらに此将る此さつまとも此あり
けるふめさましう此もあれ給ふすめをそれしく此

三ノ十七

る此海とひまへ此ひめるまるにそにしめ此
いうしうめられともとろるりあらいけ此くしも
おくします海しさほとふかくまれさき海まゆのひ
ゆゝハ年にさつまとも此ぬ此ぬまゝろはハ此とり
あかしにさまけるを中宮（上東門院）の[illegible]（枝子東院）[illegible]（枝子雀院）して
きて月日のあくまてそえかまへるふまくてすられう
いけハかうまとそ此あかしはるふ此病もはさ此命もて
めてけるまや此夜の[illegible]ハ此るり中納そや[illegible]
内蔵ハ周[illegible]の中務大輔ると[illegible]ハ[illegible]
まふ日るけさまへり一ふ[illegible]一[illegible]
をろゝるへさまもにしまれ[illegible]
き世中るりいとしいへひるてハるとも此人も[illegible]

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20

ガラス使用

ばかりにさけるへなとうへおもしましてめへいまとも
にあくとあかせて面くふいる程めしうあかせて
るしまるりしさいまこそ此參しうへすつさまも
侍らす世中いかにとかおうゆれとうて世に侍れ
さやうるんにたにさしも見なりゆりれも侍乃世も
心もるくいやすくてこそ侍らめ此るんかりひまつと
ゆさせまへ又ちれしも此りれにまるしはしへし
ばしさせ給ひすうへいにいられるしうおれさせ給ひて
まもしき上東門院乃におとまいけしましさせまへいらて時立さるを
ばし給ひすいかしるしけまおもしまれ裏位宵
すこ百るりす日日よりにいらとせ給ひ侍一条院東宮
よみぬくせまぬ世乃人おもしろくへ日もめくすめへいす

こ見れかりひそりつ是此にるやこ乃ほと一ぬれにお立
にしすめりひはしさせ給しにいれうちとしけるを
いらるしうて中ぬもめいるうにかりてめしひいち
せさ分まし一条ぬしよろはかりしたるしはるうちも
一ぬ乃にまれしうとそへるけせまし一ぬ東ぬにます
るとすへて上東門院ぬいらしさせ給ひ此度乃るて
まにいと毎るく内三条東宮侍一条院ぬるとふ来りにこめさせ給ひ
えもいますめさまし程まて見てさせ給にさいもい
かにとめてそくたてさせ給うて侍乃にるやこ此とも
らせられまにくしおろさせ給ひしとて法性るも
座主院源僧都めしてかかせておくすともいこう
かにしともとろかるり中宮家にしめくす源を

かなりそこへ乃れ寸ほうれ檀ともこほり侍ともの
物もこいれ心ゐほとい地物ゐけしうけ所くは衣
なりすゆかりの内をこはめてゐなすを日乃さしか
そのかちしそり此院まはよりて見ゐくいかはかくなり
いこしおれまけ所ともなるふ東宮乃い地まうけ来
はるかれ物ほとふりかけてするふいとめてゐしおとし
も地まるしせ給三乃宮も三ふおはしますゆともなう
海きれさせ給もいこしうめられなり、いこし地れけり
所乃又かたりなる地地なしさすれとみりあしまな
らせ給ゐまは三ましまとめれさそ乃こやはとそ中ゐ
をれまはつさせ給ぬれ志つゝひ所ゐまふ志なし
ておはしるゆちうかりそさへこはと仮く

乃きそさゆゝ海ほとなる地とそはまふ海ゐるゝ
ゆしさつさなりそれ中ゐ物乃けれもいほかさを
給ひめれとそはしめふおはしめすゝめ来せ給し
ほといこしうつくおはしましくふかくておはり千
二三ひまなしせ給ゐるまゐるゝ御さすゐなく
て物ゐれよりれまるれさあてさせ給けるふまいる
やうなりれまゐ所をいかそかはとろかまはおはしめされ
じゝろれまあとつりとみてさせ給一品ゐはす田ゐりま
おはしませはよりほまいかはゆかりしおりもてゝめられ
ゆかしめしなそく帥敦康ゐはまさい地けうおはしま
をもたしこ乃とやふいはしけしうよりほゆかし
さりしなれまゐ所なれもいたうさゆかりしなをく

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20
ガラス使用

実資公

敦康

乳宗公

新々戦教傷

いはこまる君をも重てくりまじそこけれぬ
まゆりけるぬ那 公信の内義は
くりてもけるし山路を得ひてくまくらきふるや
さけ此こそ見めめられはさきぬ事ともなり日
よりハけくもゆくします所にきこ乃きし此を所にたち
る此の調なよりはしめ例所にふきてなし安させ
すへ是もさて乃こめりけるとうしかけれまし
而を此念佛乃ほとけけれしまさせ僧なるのなれ
しこもいとしうしてきれうしよりれし念仏所
乃日れくるほど後夜なるとのいとしうめられ所にく
れしきまけれくてすくさせ後にはおれなてしこを
へまけてきて来りさるとあ乃此おれ後かめり

三ノ四十六

所せすへるを東宮とりちくさせすへきあれ所の
見舞まゝに寄そこほるとそれなしいもさるぬ
なてしこ乃也

上表門院

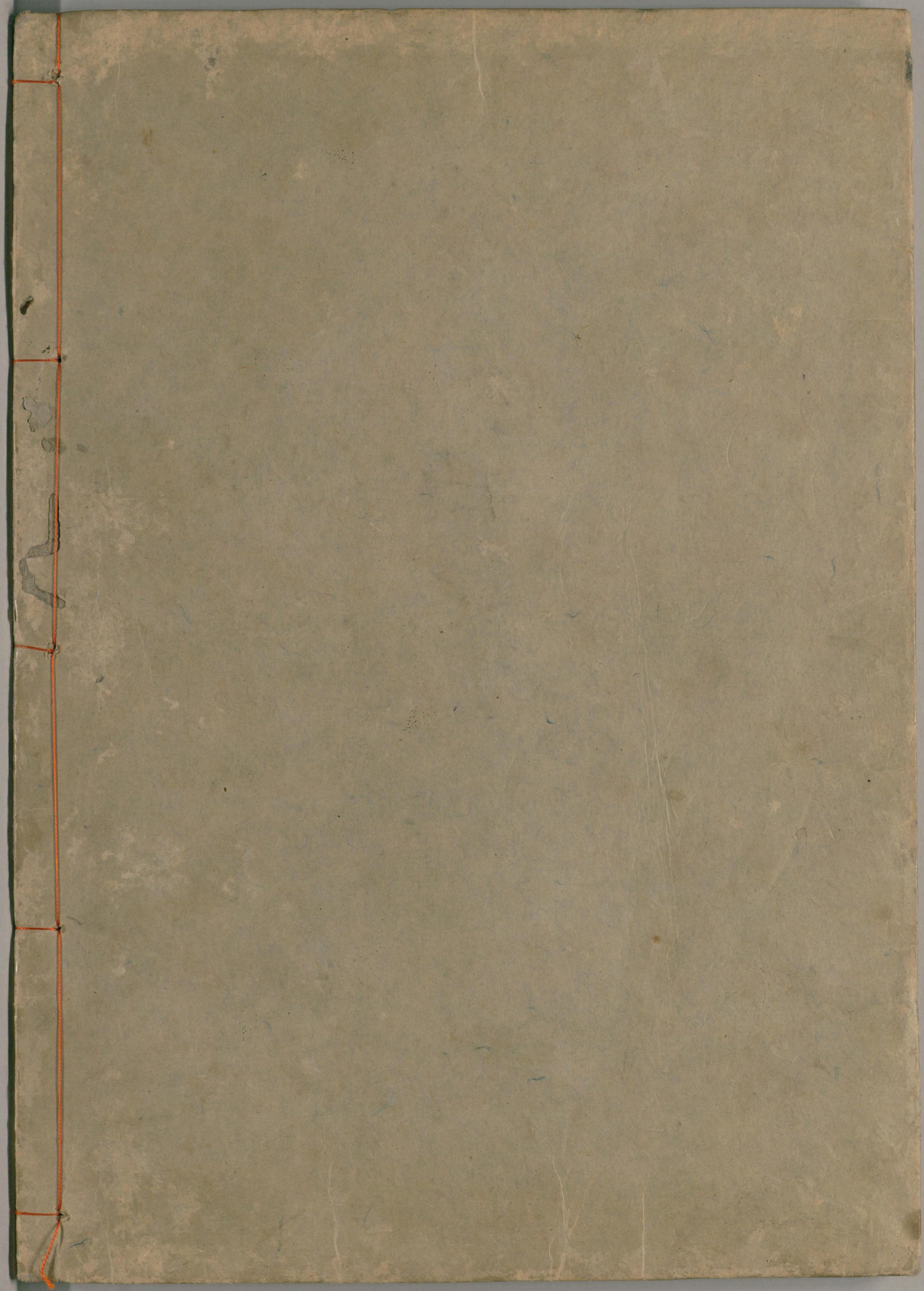
国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20
ガラス使用

月乃いとうめ花に一度ましまして不乃けるやふ
見ゆ也とも之乃にお
玉葉雜四
けをもとましまし也
ゐとゐれ仍ひそんとれ
来院にてせき分給そ乃ほとの
なれも云はしき事之
に忌をてし之ハ上東門院枇杷殿へ
後古今長傷
何事し世ハ夏に見るして涙さへとまらぬやとも
れしかりけの一所之ハ三条院にてしき給ぬ一乃之
脩子
別納におはします中之ハ上東門院
と此つ是にしき給九月中小弁乃資業一所之に
まて云るに一日ゆかりゆゑましまいとかけ乃おはしまし

857
20

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用